

都市再生整備計画 事後評価シート
喬木地区

平成30年3月

長野県喬木村

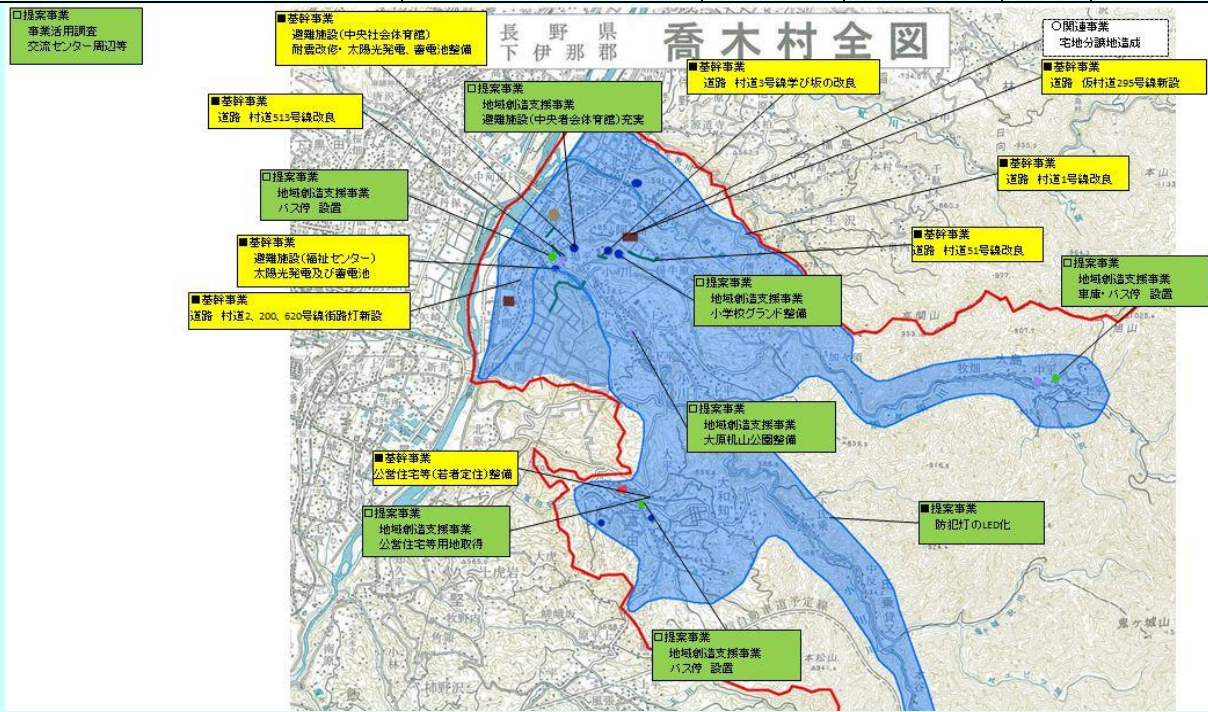
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	長野県		市町村名	喬木村		地区名	喬木地区			面積	1900ha		
交付期間	平成26年度～28年度		事後評価実施時期	平成29年度		交付対象事業費	569.5百万円	国費率	0.4				
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名										
			基幹事業	道路(1・3・51・513号線改良、295号線新設、1・200・620号線街路灯設置)、地域生活基盤(中央社会体育館)、公営住宅等整備(富田)									
			提案事業	バス停等整備、体育館改修、公園整備、防犯灯LED化、第一小学校グラウンド整備事業、公営住宅等用地、交流センター周辺等整備関連調査									
			事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
	当初計画から削除した事業		基幹事業	地域生活基盤施設(福祉センター)			別事業にて実施したため			影響なし			
			提案事業										
新たに追加した事業		基幹事業											
		提案事業											
交付期間の変更		当初	平成26年度～28年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
		変更											
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標1	人口の社会増減数	人	△12	H22-24平均	1	H28	モニタリング	評価値	△	あり なし	各インフラ整備を通し、安全・安心・快適な地域づくりのための基盤が整った	平成30年3月
	指標2	住民満足度調査	%	52	H25	57	H28		53	△	あり なし	通学路の整備等により、子ども達が安全・快適に過ごせる環境が整った	
	指標3	イチゴ狩り4月来客数	人	10,252	H22-24平均	10,350	H28		12,247	○	あり なし	交流センター周辺等整備関連調査等により、来村者が増えた	
	指標4										あり なし		
	指標5										あり なし		
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	その他の数値指標1												
	その他の数値指標2												
	その他の数値指標3												
4) 定性的な効果発現状況													
5) 実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
	住民参加プロセス				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
	持続的なまちづくり体制の構築				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								

様式2-2 地区の概要

喬木地区(長野県喬木村) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値		
大目標 社会の変化に対応できるむらづくり、地域づくりを目指して 小目標① 安全・安心・快適な地域づくりのための社会基盤整備を進め、定住人口の確保により地域の活性化をめざします。 小目標② 村の将来を担う子どもたちが安全・快適に過ごし、安心して子育てができる地域をめざします。 小目標③ 地域の農産物を活用した特産品開発や着地型観光の推進による交流人口の拡大をめざします。	人口の社会増減数	単位:人	-12 H22-24平均	1 H28	-2 H28	
	住民満足度調査	単位:%	52 H25	57 H28	53 H28	
	イチゴ狩り4月来客者数	単位:人	10,252 H22-24平均	10,350 H28	12,247 H28	
		単位:		H	H	H
		単位:		H	H	H



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯灯・街路灯の整備、避難所の充実、公共交通の利便性向上や道路の補修などのインフラ整備を通し、安全・安心・快適な地域づくりのための社会基盤整備ができた ・通学路等の新設・改良、防犯灯・街路灯の整備、学校グラウンドの改修により子ども達が安全・快適に過ごせる環境が整った ・大原机山公園を整備することで、花見やマレットゴルフにより利用が増え観光客が増加した。また、交流センター周辺等整備関連調査の検討結果を元に、周辺整備を行ったことで来村者が大きく増えた
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通のあり方、村内道路網の構築、優良な住宅の確保等の検討を行い、住みたいと思える生活基盤を整える ・増加する大型車両の往来に対し、住民が安全・安心して生活できるよう環境改善の検討を行う ・引き続き定住人口確保に向けた施策を行うとともに、民間活力の活用について検討を行う ・交流人口・関係人口増加に向け、公園や交流施設をはじめとした施設整備を行うことで交流者の誘致を図る

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		○			
B. 目標を定量化する指標		○			
C. 目標値		○			
D. その他()		○			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	村道51号線改良	40	260m	52.4	282.7m	事業精査による事業規模の増及び事業費の増	影響なし	●	
道路	村道3号線改良	30	190m	21.8	219.5m	事業精査による事業規模の増及び事業費の減	影響なし	●	
道路	村道513号線改良	15	100m	50.7	333.6m	情勢の変化に伴い道路形状に変更が生じたことによる事業規模の増及び事業費の増	更なる安全・安心な地域づくりが行えたが数値目標への直接的な影響は少ないと判断し据え置いた	●	
道路	仮村道295号線新設	7	110m	5.4	112.9m	事業精査による事業規模の増及び事業費の減	影響なし	●	
道路	村道1号線改良	28	136m	12.8	135.9m	事業精査による事業規模の減及び事業費の減	影響なし	●	
道路	村道1、200、620号線街路灯設置	22	20基	5.1	7基	事業精査による事業規模の減及び事業費の減	補助対象経費の見直しにより設置基数が減となったが、村単事業により設置したため影響なし	●	
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	中央社会体育館	34	A=1,530㎡	73.3	A=1,530㎡	頻発する大規模災害を受け、より耐震性の高い施設への改修を行ったことによる事業内容の変更及び事業費の増	更なる安全・安心な地域づくりが行えたが数値目標への直接的な影響は少ないと判断し据え置いた	●	
地域生活基盤施設	福祉センター	31	A=1,160㎡	-	-	事業の削除	別事業にて実施したため影響なし		
高質空間形成施設									
高次都市施設									
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備	富田	234	7戸	221.7	7戸	事業精査による事業費の減	事業繰越により入居募集開始が遅れたことで数値目標に影響が生じた	●	
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
			基準年度		基準年度		目標年度					あり	なし		
指標1	人口の社会増減数	人	年度末における転入者－転出者数(日本人)		-12	H22-24平均	1	H28	モニタリング			モニタリング		●	
									事後評価	確定見込み ●	-2	事後評価	△		
指標2	住民満足度調査	%	村内に通う小学校3、6年生及び中学校3年生の保護者への通学路に対して「安全」または「どちらかといえば安全」と答えた割合。(小6、中3は従前値調査時にも依頼)		52	H25	57	H28	モニタリング			モニタリング			●
									事後評価	確定見込み ●	53	事後評価	△		
指標3	イチゴ狩り4月来客数	人	NPO法人たかぎによる4月イチゴ狩り受付者数		10,252	H22-24平均	10,350	H28	モニタリング			モニタリング			
									事後評価	確定見込み ●	12,247	事後評価	○		
指標4									モニタリング			モニタリング			
									事後評価	確定見込み		事後評価			
指標5									モニタリング			モニタリング			
									事後評価	確定見込み		事後評価			

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	公営住宅等整備事業が繰越となったことで募集開始が遅れ目標値に届かなかったものの、H27年度値+11人となっており、安全・安心・快適な地域づくりが行えていることからH29年度は目標値を上回る見込みである。	
指標2	目標値には届かなかったものの、従前値調査と事後調査をお願いした世帯だけでみると「48.5%→59.1%」と大きく向上している。今後同調査を行う予定がないことから達成見込みなしとした。	リニア・三遠南信道などの国をあげての大型工事が本格化してきており、従前値調査時に比べ、通学路に対する住民の要望は大きくなっている。
指標3	提案事業である交流センター周辺等整備関連調査の結果をふまえ、村の拠点でありイチゴ狩りの受付事務所でもある交流センター周辺の整備や公園の整備を行ったことで目標値を大きく上回り、来村者数が増え、交流人口の増加に寄与した。	
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度		基準 年度						
その他の 数値指標1							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標2							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標3							モニタリング				
							事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
実施なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
実施なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
実施なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
実施なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
実施なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
実施なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画庁内検討委員会(庁内の横断的な組織)	副村長、総務課長、保健福祉課長、住民窓口課長、建設課長、産業建設課長、高速交通対策課長、議会事務局長、教育委員会事務局長、企画財政課長	平成29年12月18日	企画財政課企画財政係

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標3							
指標名		イチゴ狩り4月来客者数							
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	村道51号線改良・帰牛原	-	大原机山公園を整備することで、花見やマレットゴルフにより利用者が増え観光客が増加した。 また、交流センター周辺等整備関連調査の検討結果を元に、周辺整備を行ったことで来村者が増え指標達成に大きく寄与した。						
	村道3号線改良・学ひ坂	-							
	村道513号線改良・農協跡地	-							
	仮村道295号線新設・帰牛原中原	-							
	村道2,200,620号線街路灯設置・阿島、小川、伊久間	-							
	地域生活基盤施設・中央社会体育館	-							
提案事業	公営住宅等整備・富田	-							
	バス停等整備・大島、富田	-							
	体育館改修・中央社会体育館	-							
	公園整備・大原机山公園	○							
	防犯灯LED化・村内一円	-							
	第一小学校グラウンド整備事業・第一小学校	-							
関連事業	公営住宅等用地・富田	-							
	交流センター周辺等整備関連調査・交流センター周辺等	◎							

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	情報発信を行うなど利便性・魅力の向上に努め、観光客を含む交流人口の増加を図ります			
-------	--	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		指標1			指標2								
指標名		人口の社会増減数			住民満足度調査								
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	要因の分類	指標改善への貢献度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	村道51号線改良・帰牛原	-	防犯灯・街路灯の整備、避難所の充実、公共交通の利便性向上や道路の補修などのインフラ整備を通し、安全・安心・快適な地域づくりのための基盤が整った。公営住宅整備について地権者交渉が難航したことで、指標測定時までには十分な効果が発揮できなかった。	分類Ⅲ	△	通学路等の新設・改良、防犯灯・街路灯の整備、学校グラウンドの改修により子ども達が安全・快適に過ごせる環境が整った。一方で、国等の事業の影響により大型車の村内運行が増えたことで新たな不安が生まれている。	分類Ⅲ						
	村道3号線改良・学び坂	-			△								
	村道513号線改良・農協跡地	-			△								
	仮村道295号線新設・帰牛原中原	△			△								
	村道2,200,620号線街路灯設置・阿島、小川、伊久間	△			△								
	地域生活基盤施設・中央社会体育館	△			-								
	公営住宅等整備・富田	××			-								
提案事業	バス停等整備・大島、富田	△			-								
	体育館改修・中央社会体育館	△			-								
	公園整備・大原机山公園	-			-								
	防犯灯LED化・村内一円	△			△								
	第一小学校グラウンド整備事業・第一小学校	-			△								
	公営住宅等用地・富田	××			-								
交流センター周辺等整備関連調査・交流センター周辺等	-	-											
関連事業													

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	公共交通のあり方、村内道路網の構築、優良な住宅の確保等の検討を行うことに加え、教育・福祉分野のソフト事業を実施することで、住みたいと思える生活基盤の整ったむらを目指し社会増を実現します	時代の変化にあわせた対策を行っていくことで、村の将来を担う子ども達が安全・快適に過ごし、安心して子育てができる環境を整えていきます		
------------------	--	---	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画庁内検討委員会(庁内の横断的な組織)	副村長、総務課長、保健福祉課長、住民窓口課長、建設課長、産業建設課長、高速交通対策課長、議会事務局長、教育委員会事務局長、企画財政課長	平成29年12月18日	企画財政課企画財政係

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した新たな課題
少子高齢化、急速な人口減少が進む当地域において、地域の活性化に欠かせない定住人口の確保及び安全・安心・快適のための社会基盤の整備が課題となっている。	防犯灯・街路灯の整備、避難所の充実、公共交通の利便性向上や道路の補修などのインフラ整備を通じ、安全・安心・快適な地域づくりのための社会基盤整備ができた。	宅地分譲や公営住宅建設など人口確保に直結する施策を村主導で行わないと社会人口の増につながらない。	
大震災や子どもを巻き込んだ悲惨な交通事故などから、住民の「安心して子育てができる地域づくり」のための社会基盤の整備が急務となっている。	通学路等の新設・改良、防犯灯・街路灯の整備、学校グラウンドの改修により子ども達が安全・快適に過ごせる環境が整った。	国等の事業の影響により大型車の村内運行が増えたことで新たな不安が生じている。	
地域活性化・産業振興を図るため、農産物や特産品の活用等による交流人口を拡大させるための施策が必要となっている。	大原机山公園を整備することで、花見やマレットゴルフにより利用者が増え観光客が増加した。また、交流センター周辺等整備関連調査の検討結果を元に、周辺整備を行ったことで来村者が大きく増えた。		

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	安全・安心・快適に過ごせる社会基盤の整備	公共交通のあり方、村内道路網の構築、優良な住宅の確保等の検討を行い、住みたいと思える生活基盤を整える。	公共交通体系の見直し 道路改良 宅地分譲・公営住宅建設

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	歩行者の安全確保	増加する大型車両の往来に対し、住民が安全・安心して生活できるような環境改善の検討を行う。	歩道整備 道路改良 工事発注者への要望
	定住人口の確保	引き続き定住人口確保に向けた施策を行うとともに、民間活力の活用について検討を行う。	宅地分譲・公営住宅建設 住宅建設関連補助金 住宅供給会社との連携
	地域の活性化	交流人口・関係人口増加に向け、公園や交流施設をはじめとした施設整備を行うことで交流者の誘致を図る。	施設整備 小さな拠点関連整備 PR強化

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度						予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	人口の社会増減数	人	-12	H22-24平均	1	H28	確定 ●	-2	△	あり ●	→	H30.3	住民基本台帳登録者転入転出者数	H29.11時点+21
指標2	住民満足度調査	%	52	H	57	H28	確定 ●	53	△	あり ●	→			
指標3	イチゴ狩り4月来客数	人	10,252	H22-24平均	10,350	H28	確定 ●	12,247	○	あり ●	→			
指標4				H		H	確定 ●			あり ●	→			
指標5				H		H	確定 ●			あり ●	→			
その他の数値指標1				H			確定 ●			あり ●	→			
その他の数値指標2				H			確定 ●			あり ●	→			
その他の数値指標3				H			確定 ●			あり ●	→			

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		
	うまく いかなかった点	通学路に対する満足度を目標としたことで、変化するニーズに対応することができず十分な成果が達成できなかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		
	うまく いかなかった点	社会増減数を最終年度の単年度のみでの評価としたことで、公営住宅整備や宅地造成といった単発的な事業をうまく指標としてとらえることができなかった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		

添付様式6ー参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	喬木村役場公式ホームページに掲載	平成30年2月1日～2月28日	平成30年2月1日～2月28日	郵送、FAX、電子メール、窓口対応	企画財政課企画財政係
広報掲載・回覧・個別配布	村の広報誌にホームページで公表している旨記載	情報誌たかぎ3月号 (平成30年2月15日発行)	平成30年2月1日～2月28日		
説明会・ワークショップ					
その他	役場企画財政課窓口にて対応	平成30年2月1日～2月28日 (土・日・祝祭日除く8:30～17:15)	平成30年2月1日～2月28日 (土・日・祝祭日除く8:30～17:15)		

住民の意見					
-------	--	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	喬木村議会議員12名	平成30年2月1日	企画財政課企画財政係	喬木村議会会議規則	既存組織(喬木村議会全員協議会)そのものを位置づけ
その他の委員					

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	
	成果の評価	
	実施過程の評価	
	効果発現要因の整理	
	事後評価原案の公表の妥当性	
	その他	
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	
	フォローアップ	
	その他	
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	
その他		

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

実施なし

有識者の意見	
--------	--